



綾錦

五

中村俊定文庫

文庫 18

213

1



了了全案

心

我

遐兮往古無誹諧宗匠者
唯有連詞宗匠添削誹諧
而已自慶長中咲翁蒙
誹林一道之宗匠免許以
來海內靡然為之誹林權

興矣自是以來其源洪々
其流蕩々達此道以為宗
匠者如潮涌如流漫連者
幽玄誹者寬濶捨其屈樂
其伸一人之心追万人而
移者時勢使之然耳遂有
宗匠出連而入誹者混々

沌々不可辯識焉猶有東
都下點者影其澹區々不
分明矣因是遼以古書為
力中蹲踞老誹之前拂其
鼻上之塵近任其所知覺
各逞我持量次第々々猶
蜘蛛之縲糸綾錦之分縷

○連歌舊式目 人皇九十九代後宇多院御宇建治二年に
源倉友谷為相卿の作 是ヲ大道と云

○同新式目 人皇九十九代後光嚴院應安五年

二条御園後菅光園殿下書加玉是ヲ小道と云

○新式追加 人皇百三代後花園院享徳元年

一条殿下園白魚良公時の宗道に譲書加玉

○新式今案 人皇百六代後柏原院文龜元年肖柏牡丹花

勅と信道遠院殿下実隆公合辨書加玉

○北野連歌出葉元祖ハ梵灯菴也未社煙宮化身ト云

誹諧根元の書ハ新式と大規矩松永貞徳

御傘と編其後野口立圃の多し草松に重頼

乃毛吹草北村法印の埋本也

○連誹乃神天満宮と崇む事ハ小野宮老人ト化

二條殿下亦立水外水の書梵灯菴主

小坂を流立水の外立水の土築と

梵灯より文傳禪言親筆の書神殿に納

連歌の神辨立水外水是天満宮御雙眼と

以誹諧連歌同辨天満宮と崇

性古連歌の神日本武尊と崇

○應安乃頃普光園殿下侍公に宗道と流

たれ女書祇受口傳新在家につ今代連

歌如龜鏡と

○應永乃頃江州石山に御會 二條殿下普光園殿

月ハ山風そ〜色に鳩の海 良基公

片浪うむる萩も文り終 周阿

松一本ありぬる海葉ありてん 侍公

此時乃始て宗通と承り一座の好吉 救済 善阿 光順 信照 良阿 等

○慶長の頃清水金園殿御會 九條殿下号致山公

花子物乃るを流ん 承り 眞孝公

去ハ 萩子ひりきぬる 袖 貞徳

たるとり 裾形 熊子鳴す 玄吉

此時貞徳始て宗通と承り一座の好吉 宗親 宗徳 等 紹巴 永種

山風を腰に〜扇うぬ 三條西三光院殿 實澄

山風の宗親のまゝと折と 池上望むを承ん〜

宗親のまゝと承りと承りて候見つゝ 近衛殿下号龍山 前人公

吾んとまれと 夏乃 宗親

智〜と山風〜うぬ 死苦々 玄吉

も明を侍 月ハ 貞徳

御菓子のおこを 馬九亞相

紙〜乃終なり涼〜 枇杷の枝 光廣御

か〜寺らのその身いやくさふく外 二位 法印玄吉

こゝめもや汁乃ほ月こめ出き苔
五月雨の峯のすけり勢谷の水
秋もて終介の心田のい糸とや
冬に於宗良のなほひく補茶外
宗徳

宗徳母の序守武出産あり
つとも怪神のつくたこと

お産愛を足さくもみさ月
宗徳

ひとりーくまのあり急行
宗徳

あふこひのり 宗徳あり
牡丹花
宗徳

そよよあふや雨の望は秋乃
宗徳

きららぬのめせいらきて麻ぬ敷
宗長

とみらさる藤やこまう
仙吟

あふこひのり 宗徳あり
深中 元政

むらさきの菊の之上や南禅寺
松花堂 照兼

さうこ木とまきさる藤のそ花盛
宗鑑

さうにちり花とまらる思根外
宗粮

梅乃そ如香なう字を筆も
紹巴

ぬる雪をふるまにさるあは下
高野本食 紹純

雪乃そ雪あけくさるやがみくろ
月柏子 楚仙大

納々や木乃丸はの青山林
小坂 慶友

雪折川切竹や彌茶の湯
羅山 宗甫

えていさくまのぬのよは具足餅
道春

此かありととと見えあふるを記

○誹諧宗匠權輿

雪月花一度に足るるらんきぬ 貞徳

○貞門七誹仙

海棠花いやさやまのふかしの花 立圃
 君つまず茶にも成りて多ん乃道 維舟
 大上戸むじにあらはにさうき 西武
 神堀の燈、折葉の清きうら 令徳
 さらたぬまの酒香のほろこさぬ 貞室
 ろも筋をよりのや笑ふ系はく 季吟
 花生乃水多たもやもくくすけ 梅盛

○江戸五誹哲

何と足るも雪はく思き物いふ 徳元
 ねふし 至て福きぬぬ火火が 末得
 へりあし 何達於人丸取中うぬ 屋札
 上を下へえいさうふ乃死えう那 加友
 去るふと宣やゆけのららくら 卜糶

○万治寛文頃

既寒足絲つゝ色むや雪乃道 貞宣
 きんさく白拂舞、あめめらぬ 立志
 川言のし富の亭や屋形船 未琢
 空菊やあきなれば酒おほ 卜入

蝶く子
松永軒

哥うぐいしく白のめす山の子目外 調和

元禄のまじりま履もあつて 同

死の風あきんたりとも 不ト

元禄のまじりま履もあつて 同

よみ勢をたふそ志の時の鳥 曇俊

見とるハ花のまんぢんや寺北花 尊明

日くし月あつてや之ケ日 友徳

宿のたつたりたりと鷹の尾 水元

詩たまはれ人の心や花つら 清春

びまじりくびまじりに吟言を青山林 吟市

此句ハ栗本雪朝子亦枝の源草にあり

盛るよのやう一のちかさく 一貞

雪折やむしにくた笠乃宵 松意

花をふんそふらふら一詩の夢 幽山

○元禄始ヨリ享保年中

名乃つぬ本かりぬ一山さく 湖春

任勢に指す たんさくまあり

何の春乃花はあつて白む外 芭蕉

此句ハ古涼本中川文家選今嘉平のよあり

西風ひらり世分と志ぬ且ぬ 素堂

春乃後子のまじりまを牡丹 似春

いたるまや不向身にあつて露言

はくし玉腹を壁色乃枝折外
 誰乃くそ舟なうし五月雨
 身かめく身あそむ心河外
 ちの草や青くくぬ芝乃 隅 和階堂
 花はより子くあさくま婦外
 竹の子や児の葉くまのりき
 多く海きねも眠くも去乃雨
 炭も絲く物こりし人 心
 包もくもあも延びるもらす外
 水とぬく念せゆく物や夕涼
 抽乃花のその中 其白外
太白堂
 兼豊 山夕 一晶 立志 其角 嵐雪 桃翁 一蜂 無倫 沾德 介我

小男にうけけぬーや下とみら
 家なけよつとねもあは加一抗
 へー回やみりの座のくハ濁
 入お乃種さつまぬ花もくぬ
 我影やー念くの心井戸中
 そましくは青き葉もあり海りるぬ
 心くの屋く隙城く法あり外
 川筋やちと割くースきーのむ
 旋川網そのち乃氷くぬ
 捨ふを雪のそくつる去日外
 草かり乃笠のこくこく甘夏外
 秀和 東潮 遠水 正友 神叔 素杖 末陌 常陽 立嘯 好押 松水

教る花よりくく度る法あり 盤谷
志々魚乃戸田のこころや郭公 子英

此句奥州須賀川等所撰一本戸子入りありし
頃いづなる子英加入せりしに於ていふを
加ふ子英もあそいひてまた和歌方の會席に
あつて歌歌すそのら等法此事をさうていひ
今いづるも人も我も亡して此書のくく
草の陰丹いよるふとありていひてさぬ
その二つは序にありありてあつたのつたを
聞たり等然風船を今思へていふと指し

喜やむいいてはくならり 萩の笹 立志
雲は雪花をあつてくきふの月 和英
袖下のあつたふいけり 浮生

新田にたつて申く汐下 拳白
死ぬまゝ生れたるを女 蝶子息 二葉
此句歳旦の益の益なりしは柳ありては須賀川にあり

庭根をさく志のこゝろ屋敷や時多 堤亭
くすものも柳かけをたりむ 芥鉄
簾下く作つるらんをみね 女 秋色
肩より子に髪なつて異なり 女 その女
く 鯛の釣かめるとも 旬 佳風
見たり日を志にけりよめ栄摘 前 青峨
何をを 船も見えぬ 初時雨 井谷
右乃介見えたりとていふとく

○寛永頃京大坂宗匠大概

齒牙あゝく浦志あなきや溪の雪 一 安靜
 本号あゝく糸や糸立はくま 定重
 廿日子増え糸三七く糸はくま 宗伴
 七賢、極せん花や萩椿 道節
 七賢、極せん花や萩椿 道節
 せんくくたはくま乃月も糸はくま 正由
 三夕もくまやひくま乃まきの秋 元隣
 松く友蛸あきんきくまあり 宗因
 橙花一志つと志はくま乃くま 空存
 綿くくまみちみれくせくくま 休甫

連歌花下 新在家代

ひとくらの一口くやみか子 日 致也
 凡そよく奈良凡良くらの糸糸く 日 春倫
 故あきとせの糸く夏の夕多 天王寺 道寸
 けく糸乃糸く糸く糸く糸く糸く 坂 成安

侍公 宗匠権輿トス
 慶安頃普光園殿始而宗匠賜号ヲ

心敬 僧都 専順 智温
在川新右衛門 應永頃

宗倡 杉原加賀守 能阿 法師 行助 法師
在 専順、續

戴恩記 御筆 紅梅子句 浚川池粕

長子 昌三 松永 儒道

一切經八十紙書

羅山子長男

春齋 御儒學 本朝通鑑書

哥道門人 盤齋 加藤

長子 昌易 春秋館 儒道

御典茶 三竹 野間

一華堂

李季 永三 懷德堂 儒道

順菴 木下

長好 廣沢

誹門人

道春 林家儒宗 羅山子

隨有 滝川 省菴 安藤

三之

御儒學所

由的 宇都宮

儒宗家

道春昌三兩人才貞德導而入門惺窩先生

貞門七誹仙

一流祖

野々口親重入道 号松翁

①立圃

寛文頃卒享年七十有余

京 編集

花月子句 粉雪子句 みこの家 小町おどり 硯まゝの 空つゝて 法ら折 老多子句 長久保集 善後集 江戸集 大岩 二つりこ 萬句 舟橋 沢田集 新後集

京

幸和 江崎

編 下り白

和年

常辰 年七

重栄 竹山

編 短使集 以下略之

一流祖

②維舟

松江重頼入道

京

右同頃卒行年七十四

京

重方 望月

編集

毛吹草
淳世長刀
乳母
むくしの

太子草
懐子
大井川
依原中心

大坂 弘永

現 鬼貫

京 言水
以下略 池西

的傳

安原正章入道

嫡子 元次 安原

三 貞室

元和頃卒行年六十四

編集

玉海集

月續

悲母追告

百勺自注

氷室寺

独吟子句

京 可頼

音地

貞恕

跡目

同 惠佐

藤本

大津 皇次

乾

以下略

四 西武

延宝頃卒行年七十三

又 的傳

哥道二華堂門第十

山本無外軒入道

京 正在

小原

編集

尊統波

くろ

ありきり

以金袋

月續

何上子

はくし

くろ

ありきり

京 正伯

嶋本

隨流

松月菴

編永代記

以下略

御歌学所

李吟

北村拾穂軒再昌院法印

編集

住京松原室町東新玉津島後

召出

山ノ井

花千句

むとん本

宝永二酉六月

いさこ

新大流波

法正独吟

十五日卒歿八十二

十合集

北合集

正慶寺

有墳池ノハタ

哥出

万葉集抄

八代集抄

源氏物語抄

枕草子抄

つとく

いせ物語抄

大和物語抄

百人一首抄

其外品

京 元隣

山岳

同 可全

大村

則常

伊豆

湖春 父季吟同時被召出
元祿十七正月十五日卒

御歌学所

六 人之德 鷄冠井 又良徳下云
寛文頃 中年ニ卒

崑山集 誹諧四十余年
土塵集 親灸

七 梅盛 高瀬他心子
元祿頃卒老年

日守集 ありむき 古後
茂穂集 何色心 山下
抄子集 とい仙 本玉集
便舟集 新舟集 早梅集

京 良保 奥西

京 友三 奥西

大坂 女貞 井口

京 今富 鷄冠井 跡目

以下略 友我

京 安重 丹海

同 倫員 藤村

同 道槃 佐木

同 信徳 伊東

以下略

京 一雪 持梨柳風菴
延宝頃卒

編集 裾屑 茶抄竹 雨あふき
粉拵 せんご 少さる
作若子 とい小神 云母織

京 重友 尾別

一和 以下略

京 安靜 萩野似空軒
右同頃

編集 鄙談集 くの細布

京 俊秀

同 宗英

同 重隆

同 似船 富尾 芦月菴

同 偏苗代水

貞門 馬洲宗畔 末吉道節
端氏定重 宮川正由
是等の川流武江より 依略之

江都宗匠

●五哲

安静門

一 德元 奇藤帆亭

寬永ノ頃

住馬喰町三丁目

刑持家

編集

初学坂

於若州卒

調和

岸本壺瓢軒

号土齋

編

是才々草

土齋成後高才和葉

取立

正徳五乙未十月十七日卒

享年八十有餘

有墳筑地門跡地中

調和院道鑑士

二 未得

石田乾堂

住神田鍋丁町持

編

立以集

德友

粮

和英 壺枕奇

古子保三酉二月四日卒

四十有餘父同不葬

水元 万治頃

清春

昌雲軒

右月頃

編

安山集 麻笥集

十勺集

未琢

長男

石田良堂

居父ノ住所

在哥ノ邊人ナリ

編

一と少々

天和三戌三月廿日卒

享年七十有餘

墳父同所

隆芳院未琢居士

埋木

住傳馬丁

好柳

壺井

住京橋

風堂

山崎月嘯軒

住神田

艷士

横田壺谷軒

常陽

水戸

住京橋

後成根津社職

享保年中卒

門人

未陌

元祿頃

接田氏
住中橋辺

里風

親氏

住芝三嶋下

不卜

岡村一柳軒

住堀江町

和推

堀尾鼓柳堂

先師点印傳松曉林
和葉自和葉又
和推附屬

編 法きり系

元祿四庚未四月九日卒
有平河山法恩寺墳

息

和金

堀尾
末宗近

不角

立羽松月堂

号千翁

住八丁堀

編集 七十五版焼失 其後 百人一巻三巻
九巻 同十巻 同十一巻 母恩集
法かん形 信吹仍
本多のあさ衣

不肩

立羽安月堂

風姿集

一雪門

服部氏
寛文頃

壽角

立羽松千堂

編 貞健久久記

玄札

高島氏

疎心

寛永頃

住本町甲目

編 十種千句

山夕

堀口

加友

荒木泰菴

寛文頃

住兩替町

編 法きり系

日頃勢州松坂日名あり
是春陽軒加友云

山夕

桃井鳴桂井
始仙水ト云

現 仙水

桃井

末宗近

友德

正友

勢州村本勾當望一弟
住芝源助橋
延宝頃於林誹謗流布時
合歸田代松意而宗因荷擔

牡丹花孫

五 下 粮

半井法眼
御醫 始慶友ト云

父半井慶友是温野下粮ト云
拜領屋鋪鉄炮洲明石町裏
寛文頃 狂哥ノ名人
父子氏二慶友又ト粮ト云ナリ

男

下 仙

半井 殺酒
未葉有于今

一 蜂

河曲田泉舎
号葛仙翁
住神田

言 水

池西氏
又季吟門ト云後住京

粮 得

下 一

山州伏見
菊岡氏

下 入

梅原氏
寛文頃

魚 豊

元祿初頃

門田氏法橋
住久保町

中真一流祖

挑 音

住新大橋
松尾大ノ軒釣月堂
号芭蕉翁

本土伊賀上野士松尾藤七郎
菊岡隨性軒如幻道守而入季吟
門正保元甲申生元祿七甲戌
十月十二日於大坂來春秋五十一
葬江州栗津義仲寺
諸国墳

有江戸深川長慶寺
有伊賀上野万福寺
有京東山双林寺
有大坂道頓堀十日寺
有美濃大垣正覺寺
有肥前長崎南京寺
有奥州高館古城跡碑

令德門

一 晶

号賀冥靈堂
号崑山公羽

元信德門 始京都
住兩替町

令德翁ノ崑山印附屬之
在世用之此印行方不知
宝永四亥四月卒
齒六十有余

編

万水入海ノ子付
丁卯集 荻原山
八宗懸隔

斧 鉞

藤本羽仙翁
住石町
享保初頃卒

有奥州素折短尺塚

蕉翁のくまくと埋

編集

くらみの ねの細乃
乃乃日 二十奇仙
二百款

素堂

山口今日菴

始云信章又來雪トモ云

享保三申八月十五日卒

齡七十五

任本所

有墳谷中感應寺

似春

小西氏

任本町

後成ニ総州行徳社職ト

編 芝山くろ

貞室門

蝶子

貞宜

万治頃

住鍛冶橋

編

思出草

物志草

朋友集

たろこ

松茸草

いし

江戸八百款

河の友

正徳享保頃本御菊坂

同名アリ此門流ニアラス

古人ノ名ヲカリタルノミ

現

貞陸

住品川

佐保介我徒弟

今住川越

嫡

二葉子

秀和

大野炭瓢齋

号相水翁

正徳四申午八月卒

嫡

秀堂

大野

未宗匠

吟市

親氏

大徳院身子

安任院尊海和尚

本土江州

屋銀塘

天和二戌於江州卒

高身又津見吟市受續

表徳御直糸非点者

無倫

志村拾葉軒

号雪堂翁

本土越後

任大鋸町

享保八卯二月廿九日卒

有墳合海山音松寺

不入

尊明

服部氏

任本邸

重頼門

幽山

高野丁軒

任本町河岸

元祿頃藤堂任口公ニ任テ

改竹内爲入

於勢州久居卒老年

立圃門

立志

高井松樂軒

寬永頃

任本町四丁目

編 櫻木集

立宜

高井松雨軒

若年而卒

法名天質 硯壽居士 行年六十三

現 倫里 且立穂葉軒 住石町

現 婦 來川 且立 始古鈴

神叔 音木氏 神道 住石町 元祿頃

浮生 北藤銀塘居 迦樓羅園 住銀町 編 原排論 水秤集 多跡話

享保三丁酉正月卒 年八春 有墳小日向金剛寺

芭蕉ノ系

其角

宝井 宝晋齋 号晋子 住茶場町

編

新心家 白兄身 月續 意集

心音 杉柑子 石つ

新集 尾尾翠 糸糸合

三上心 枯尾花 糸糸合

宝永四丙亥二月廿九日卒

有墳二本櫻上行寺 法花宗 有墳深川長慶寺 門人立之

嵐雪

服部 雪中菴

兼應三甲午生 湯島椎名久米助ト云 天神宮釣鳥井ニ其名アリトソ

編

その袋 水 住濱町

宝永四丙亥十月十三日卒 年四秋 葬駒込常駿寺 法花宗

二男

立志

高井 和階堂 始立詠ト云 住石町 編

宝永元甲申八月卒 年四十八 高林院立志日葉 伊勢松坂加友門

子英

岩本氏 後止息者 住 始浅草

正徳ノ頃卒 後本不

起波

清水 独步菴 住堀町 現

貞佐

栗岡 桑ノ畔 始平沙ト云 住本材木町 編集九品

秋色

女 住小細町 其ノ用点印附属

堤亭

下邑氏 住住吉町 編 柏あけ

享保三丁酉二月十三日卒 年四十有餘 有墳深川法禪寺

現

一漁

鶴海 釣月堂 居浅草 編

あむり

傘車

鶴海 住末宗通 現 婦

有墳深川長慶寺門金之
雪中菴不自亥卒居士

その女 女 おろのよ
本土勢州山田渡會氏女ナリ
依テ忌法体成ニ韓風頭
編 住深川

有深川天巖念佛堂墳

桃翁 天野太白堂具行軒
始桃隣ト云

本土伊賀上野芭蕉翁
古朋友ナリ 居神田
編 居神田

享保巳亥十二月卒七十有余
葬浅中新光明寺

現

潭北 常盤百花莊

本土野州那須
編 汐水一 好の月日
及古一 くのふり
このふり 民家分量記
分里夜話

現

湖十 曾 木者菴

其角門人也先師点印
秋色ヨリ 附属ス依テ
此系ニ譜ス

現 粮 永機 曾

現

桃翁 瀬尾大練舎
始杜格ト云

元秀和門 住押塘
編 雨あがり ぬのり
ひのささ ころもり

現 婦 陽秋 瀬尾 未宗近

介我 佐保井雨亭
始普船ト云

享保三戌六月十八日歳六十七
有墳浅中本願寺

現 婦 穀我 佐保 未宗近
編 編

拳白 草壁氏
編 編 二首 額
え 祿ノ頃 卒

編 編

現

立志 心保和散才
始春水又立詠

宮の累 庵のまき
庵中
享保九甲辰十一月廿日
有浅中常福寺墳
立志二代
点印ハ野州宇都宮住
音山立鴨附属

現

水國 雲津鶴隣ト
始暗星ト云

今沾洲門也 住橋町
雖然立圃五代相續ノ
宗近ナキニヨリテ系ハ譜茲

現 粮 永機 曾

東潮 和田堵中子

編 在柄千夕 急の本 住西河岸

元祿ノスエニ卒

素狄 熊谷氏 住橋町

右同時代

周竹 清水才松齋 住田前町

先師点印附屬

白峰 三田風琴子 住神田

元露言門 令菴 醫 住神田

現

當國 稻川了兼亭 住神田

元盤谷門

丹水 住深川

前向ノ判者ニ同名アリ

現 吏登 榎井雪中菴 住深川

始李峯

編 嵐雪点印周竹ヨリ附屬 或同珍

現 今吏 市田十符菴 住神田

始雁行

編 吳菊香

現 陰威 今村 住駒町

始楓山

現

舞山 帶金 始茂唐 住

元才唐門

風虎公

非点者

内藤左京亮義泰公御夏

御集

依左の... 山

御嫡

現 露沾公

非点者

内藤下野守義英公御夏

遊園堂傍池亭

御集 有上貞

露沾公門

福田風琴子

嫡

言格 福田氏 醫

元調和門

始調也ト云

露言 白堂

御表徳ノ兩字一字宛

住南傳馬町

露言 沾徳ニ下ル

遠水 樋口氏

元祿四未四月十日卒六十有余

住土倉町

露沾公門

沾德

水間合歡堂

始沾葉ト云

元露言門

編

一字出茶集

脩苑十句

日續

享保十二年六月廿日午有餘
有墳平河山法恩寺本理院了德日到

現

破笠

今止点者

現

勢吉

幼年未宗通

露沾公門

沾涼

菊岡雀下菴南仙齋

現

元一晶門

始南仙ト云

住神田

編
百枚身
詠云の外

日續
百花実

日本乃中仍程記 日光名跡志 江戸麻子温故志

現

布仙

未宗通

梅立

未宗通

露沾公門

露牛

赤荻

現

元湖十門

始花妻ト云

現

沾洲

貴志行翰齋

始民丁ト云

編

青條 貴志
未宗通

現

成屋

長坂普峯礎

始仙格ト云

井谷

長島氏

享保十三卒

現

百洲

江川掾山甫

始尹督ト云

現

乾什

岩本千歳兒

始吳丈ト云

現

壺月

石川

現

常仙

志村孤鶴汀

現

音峨

前田三押菴

始又深米ト云
後泰室ト改

住茶研埴

元東潮門
享保十五酉卒

鶯田六峽仙
住茶場町

現

沾山

内田挂坊

住淺草

紹純門

宗因

元連歌師

誹諧談林一流之祖

任大坂天滿

西山一幽号西翁又梅翁ト云又梅下翁尼

宗春 連哥

大坂 玖也 杉山

延宝年中下武江而暫居弘談林一流

春倫 濱田

編集

其外略

百韻 百韻 独吟集 ひろあゝ
たのまの百韻 百人傳 十合集 せうあまゝあり

大坂

西鶴

二万堂 井原氏

一日二万三千句独吟ソレヨリ二万箱トモ云 元禄六酉秋卒齡五十二

編 大矢敷 こゝろ百答 胴骨 松中 石車 世田河

松齋

田代川草子談林軒

松水

杉本氏

編 虎溪集

始大坂 後江戸北廿町居

正友ト兩人談林風流布宗因荷擔

於龜戸天神宮田原 笠著誹諧之奏起

盤谷

志水泉宇

現

尾谷

十足梅堂

住瀬戸物町

北蓮塘 住神田

大坂

才磨

推本舊德翁

始西九

佳風

豊島有紀堂 儒道

前任江戸 大坂門人略

始才尾ト云 住廿力町

伊勢真光寺昌英門

景俊

万治頃

此末門不知

逸志

笠家半扇菴

住淺草

貞徳正統松永尺山門

貞山

相洲芦丸舎 湖月亭

貞賀

嫡子

一淵堂

編 ひろはゝゝ 江戸名所集

もろみス茄子のいつく 菊の草 芭蕉門 嵐蘭
 松の書行のしらたき 在色
 麦を新 詠に屋その秋を念も 枳風
 神口の志也まのはりりや玉柳 楓子
 蟹も人もそよあく 沖の汐干外 仙花
 動さるる思持もや星乃床 曾良
 こもせし人い志く 繁々古柳 岩泉
 そも切し汲物もたきききき 利牛
 箕子干く 窓にそちやく 孫乃枕 孤屋
 物言ハ 推の冥 嘆る 庵う 露言門 午竿
 このままく 月のまふ 谷のま 紫が 似春門 専吟

白如やうらけとそゆ 雷の人 一品門 風曝
 タノ海や 大運 柳よも 雲 神尾 虚堂
 大信の 弁死の 目や 浦らり 月 琴藏
 勅子の 東中へこ ぬ 申 銀葉
 その通乃 汗 志 色 たり 凡 炉の 炭 其角門 岩翁
 弁の花や 舟 狭き かの 海 通 祖 神 石内 朝叟
 子 鳥 鳴 言 や 留 主 なる 海 士 の家 津村 横儿
 幕 没 川 色 乃 頃 や 申 古 璉
 馬の ぬき 宿 日 だけ ぬ 枕 把 の 花 嵐雪門 古璉
 中 なる いか 帆 の 端 乃 海 人 ぬ 日 栢十
 尼 寺 の 石 あり 海 なる 珠 珠 日 氷花

亭の夜をくしめてはるかに

月雷堂 百里

耳かきくちを候はたさう花知本

天寺道寸門 白雲

象の移むり落る柳うね

不卜門 琴風

ぬき紙をくちやあすや沙千糸

中立志門 出紫

琴風も尾張むしやきよの月

末立寺門免睡堂 立和

日にやきては笑ひさくふはる

沾徳門 子葉

姥はくく杜。舟乃名の恨うね

日 又魚

雲水乃るもひく物ほくさ

日 徳純

あきあきの人と際限なく 小樽うねの書よる思ひ

あきと不と拾ぬ事 牛乳毛一節

あやあ——さ上の軸

あきあき



